

2020年大納会

2020年12月30日、この1年の取引を締めくくる大納会を行いました。

福岡市内の会員証券会社の方々をはじめ、約25名の市場関係者の皆様にご出席いただき、小田原理事長の挨拶と、引き続き理事長の音頭によって、くる年の平穏と景気の拡大、証券界の益々のご繁盛、ご列席者の皆様のご健勝を祈念して恒例の「博多手一本」を入れました。



理事長挨拶
(2020年大納会)

理事長の小田原でございます。2020年の大納会にあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。

まずは、この1年、会員証券会社の皆様をはじめ、市場関係者の皆様、大変お疲れ様でございました。

お蔭様をもちまして、本日、本年の取引業務を滞りなく終了し、このように無事納会を取り行うことができますことに感謝し、衷心より厚く御礼申し上げます。

さて、この1年でございますが、国内外ともに新型コロナウイルス一色の一年だったと言っても、過言ではないと思います。

我が国に限ってお話しても、1年半ばに初めて感染者が確認されて以降、感染者が拡大し、3月下旬には本年最大のイベントと目されていた期待の東京オリンピック・パラリンピックの延期が決定し、4月7日には、福岡県を含む7都府県に緊急事態宣言が発令されました。4月16日には全国に拡大されました。

こうした中、経済は戦後最大の落ち込みといわれる状況となり、これまで元気といわれてきた九州につきましても、インバウンドの消滅も相まって、非常に厳しい状況となりました。

私共、福岡証券取引所におきましても、感染拡大防止の観点から、主催する「IPO挑戦隊」事業、「福証IRフェア」等々、各種行事の見合わせ、延期を余儀なくされたほか、新規の福証上場が途絶えるなど、大変厳しい残念な面も少なくなかった1年ではありました。

一方で、市況の持ち直しに支えられ、売買代金は昨年2019年を24%上回り、好調であった2018年に近い266億円で着地しました。

また、ウェブを通じた上場推進活動や、福証IRフェアオンライン、IPOに関するオンラインセミナーを開催するなど、新しい試みが芽生えてきた1年ではなかったかと思っています。

我が国の足元の経済情勢をみると、「依然として厳しい状況」にはありますが、「持ち直しの動き」もみられるところです。

また、皆様ご承知のとおり、日経平均株価は、年後半には既にコロナ発

覚前の水準を上回って推移し、昨日には2万7千5百円台と30年ぶりの高値をつけました。

株式相場が将来の実態経済の改善を先取りしているとすれば、来年の景気は控えめにみても「今年よりは良くなる」と期待いたしたいと思います。

来年はワクチン接種開始などを通して、感染症が一刻も早く収束に向かい、社会経済活動が徐々に本来の軌道に戻っていくとともに、時代の要請であるデジタル社会やグリーン社会の実現といった中期的な波が、新しいビジネスチャンスを生み出していき、内外経済ひいては地域経済が元気を取り戻していく。来年はそういう足がかりとなる一年になることを期待してやみません。

私共、福岡証券取引所は、「地域に根差した取引所」として、「直接金融市場としての役割」を十二分に果たし、「九州を中心としたこの地域」の自立的・持続的発展に貢献したいと役職員一同、より一層の努力を重ねて参りたいと思っています。

皆様方には、来年もよろしくご支援・ご協力を賜りますよう、お願いを申し上げます。大納会での挨拶とさせていただきます。

皆様、今年一年本当にありがとうございました。「よいお年」をお迎えください。